

白門経友会

卒業おめでとう

—みなさんの新たな船出によせて—

白門経友会会長・経済学部教授 松丸 和夫



二〇一一年の日本列島は厳しい寒さと豪雪に見舞われて始まりました。長く暑かった去年の夏、みなさんはそれぞれの課題に向かって、本当に汗まみれになって奮闘されていたのではないのでしょうか。早々と企業から採用内定をもらった人も、安んじることなく将来のキャリア形成のために、悩み、模索の連続だったでしょう。公務員採用試験の本番を控え、追い込みで休む暇もなく机に向かっていた人もいます。夏が過ぎて秋の気配を感じながら、企業訪問や最終面接で、焦りを感じながら満員電車で揺られ続けた人もいます。卒業後の展望を失い、心が折れ、意

欲をなくした人はいませんか。こんなはずじゃなかった、もつとがんばれば良かったと後から反省する人も多いでしょう。偶然に二〇一一年の春に大学を卒業する皆さんの世代は、一、二、三学年上の先輩達と比べて、まさに「就職氷河期」の再来という困難な氷壁に翻弄されましたね。大学を卒業するけれど、まだ今後の予定が立っていない人、素直に喜べない心境の人がいることを私は知っています。それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんにははや学生ではない、という意味でも社会人になります。でも人生には完全な完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんの母校となる中央大学に残された者の本音です。そして、またいつでも母校に「元気でどうっておいで」と呼びかけたい気持ちです。よく社会人になると学生の時のように甘くはない、と警句が発せられます。

ます。確かにそうなのですが、現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題がたくさんあります。もちろん、問題を解決するために皆さんのこれまでの経験と知識を総動員して下さい。でも、一人だけで悩み、一人で立ち向かうとしても手強い問題ばかりです。そんなときこそ、これまでの人生で得た友人や先輩、そして大学教職員に相談してみましよう。

白門経友会は、第一に経済学部の卒業生の集まりです。第二に、現役の学生も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学員と交流することが出来ます。第三に、経済学部の教職員も構成員になっています。二〇〇九年の六月に会長に就任して以来、こうした白門経友会の構成・成り立ちのありがたさを折に触れ実感しています。人間は一人では生きられない、一人ではなかなか強くなれない。だからこそ、白門経友会は緩やかなつながりと結びつきを大事にしながら、現役学生から卒業生の大先輩までを包摂する組織としてこれまで二〇余年の歴史を継続してきました。この度ご卒業される新学員のみならず、母校中央大学と経済学部を誇りを持ち、そして愛して下さい。そしていつでも、「ただいま」と元気に姿を私たちに見せて下さい。白門経友会は、いつでもみなさんのそばにいて、お役に立てるよう努力します。元気でいってらっしゃい。

キャリアデザイン授業に参加して



経済学部二年生

栗原 彩

今回、キャリアデザインの授業のために松丸先生が呼んで下さった講師の方々はとても素敵な方々ばかりでした。多種多様な職業、キャリアの方がいらつしやつたので、社会人という括りについて、広い視野から考えることが出来ました。中には中央大学経済学部の卒業生の方がいらつしやり、在校生としてとても親しみを持ってお話に耳を傾けていました。講師の方々のお話はどれも興味深く、濃い内容でした。そして、まだ学生の私達にも理解しやすいように分かりやすく、とても熱心に授業をして下さいました。

また、講師の方全員に共通して思ったことは、明るくポジティブで、前向きであるということです。そしてそれが、ご自分の生き方やキャリアに反映しているという印象を受けました。お話を伺っていると、様々な失敗を経験し、時には苦悩なされたこともあるようですが、それでも屈することなく、前向きな姿勢を持ち続け日々努力をなさつた結果、最後にはみごと、成功を勝ち取っているように思えました。このことを通して、今は夢を追いかけること自体困難な時代ですが、私自身も将来に對して前向きに希望をもつことが出来ました。更に、この授業を受けたことで、今、自分には何が足りないのかを明確にすることができました。なぜなら、講師の方々のお話を伺っていると、それに対して感じ、思ったことを通して、自分の気持ちをうまく整理することができたからです。

そして、特定の職業にまで将来が定まらなくても、社会人としての理想像をイメージすることができ、社会人になったら自分のどんな長所を生かせる仕事に就きたいかというような目標を立てることができました。この授業では、同じことに取り組む場合でも、自分の中のやり方を少し意識したり、向上心を持つことに当たるといったことが実はとても大事で、そのことが自分を変えてくれるということを教わりました。こういつた考えを念頭に置き、この授業で学んだことを今後を生かして充実した学生生活を送りたいと思っています。



経済学部 二年生

保坂 まみ

私がキャリアデザインの授業で最も興味深かったお話は、高田圭悟さんの講義です。

企業が求める人材や自分自身にプラスになるようなお話を聴かせていただき、それについて考えたり、実際に再現してみたりと、とても貴重な時間でした。

将来私は、アナウサーという職業に就きたいと思っております。非常に厳しい世界であり、まだまだ自分には足りないところばかりです。高田さんの「自分の『強み・弱み』にこだわらない」というお言葉は私の中で強く印象に残りました。「強み」は、これを伸ばせという事ではない。そして「弱み」は好きになる事も必要、この言葉に感動しました。私は言いたい事や思った事を上手くまとめ、文章にする事があまり得意ではありません。しかし、高田さんのこの言葉のように弱みを自覚し、認め、この弱みを伸ばしていこうと思えました。友達や誰に対してもしっかりと相手に伝えたい事が伝わるように考えてから、思った事を口に出すように努力しています。

また、面接や実際に就職してからは自分の意見をはっきり言える事はとても重要ですが、「聴く事」も重要だと学びました。自分の意見を述べるだけではなく、他の人の意見から吸収出来る部分もあると思います。高田さんは、アルバイトは社会の勉強が出来るとおっしゃっていました。私は居酒屋でアルバイトをしています。居酒屋でのアルバイトは忙しい中でお客様に対する態度だったり、期待に応える事がとても社会勉強になるといいます。確かに、お客様に対する態度は以外に難しく、悩む事もあります。しかし、このようなお話を聴いて、将来の自分にとって何か得るものがあるだろうと思えるようになりました。

弱みを認め、普段からコミュニケーション力を学び、「聴く事」はアルバイト通して、学んでいこうと思えました。

インターシップを体験して



インターシップを体験して

「小学館集英社プロダクション」

経済学部経済学科三年 伊藤友紀

私がインターシップの履修を決めた最大の理由は実際に社会の中で働く方々の近くで就業体験をしてみたいと思ったからです。最近ニュースなどで就職氷河期という言葉を目にする機会が増え私たちにとっては非常に厳しい状況となっております。就職活動に對してかなりの不安を感じています。私はこの不安を解消するために今までとりあえずさまざまな資格試験の勉強をしてきました。しかし、これらの資格が就職活動、あるいは社会に出てから本当に役に立つのか疑問に感じているのが正直なところでした。

そこで新たに自分が成長できる良い機会になると思いこのインターシップの履修を決めました。さまざまなコースが開講されていますが、インターシップ受講ガイダンスの中で担当の平松裕子先生が企業における業務評価は主に問題発見解決能力とコミュニケーション能力であるというお話をされ、それに対してとても強い関心をもったため民間企業コースを選択しました。

ました。

◆事前学習の内容について

インターシップ民間コースでは大きく分けて次の二つの活動を行ってきました。一つは週一回の授業で行うPBL学習です。

PBL学習とは、学習者が主体的に学習を進めて行くという学習法です。具体的に私たちはこのPBL学習で、ある架空の利益が落ちている出版社を想定し、その出版社を救うための企画を四つの班に分かれて検討しました。そして最終授業では実際に出版社の方にお越しいただき各班がプレゼンテーションを行いました。各班企画を提案するために、まず出版業界を取り巻く環境を分析し何が問題なのかを考えました。そしてその浮かび上がった問題に対して各個人がさまざまな案を考え班内で何度も議論を重ねました。そして最終的に各班の企画を提案することができました。この班内での議論を何度も重ねてきたことよって、問題発見解決能力

とコミュニケーション能力が養われたと感じています。

◆インターシッププログラムの内容について

私は今回夏季休業中に小学館集英社プロダクションの江戸文化歴史検定協会で計十日間就業体験をさせていただきました。

実際に経験させていただいたことは社内見学、打ち合わせ同席、電話対応、印刷物コピー・発送準備、検定告知パンフレット設置などです。

打ち合わせに同席し電話対応等で感じたことは、実際に会社で働いている人と学生の能力差です。打ち合わせでの細部まで詰めて話し合っている様子、電話対応での丁寧かつスムーズな対応などには本当に感心するばかりでした。印刷物コピー・発送準備、検定告知パンフレット設置などの仕事も経験させていただきました。ただ、これらははっきり言ってしまえば誰でもできてしまうような単調かつ地味な仕事でした。

しかしこのような仕事の中にも会社で働いている人と学生の大きな差としてはコミュニケーション能力の力量の違いを感じました。

私を指導してくださった社員

の方も私と同じ仕事をすること
がありましたが、私よりも格段
に効率よく仕事をしています
。打ち合わせや電話対応など
で発揮される能力に差があるの
はある程度予想はできていまし
ましたが、このように単調かつ地味
な仕事を飽きずに丁寧かつス
ムーズに行える力がどんな仕事
にとっても基礎になり大切だと
いうことが一番身に染みて感じ
たことです。

◆インターンシップで学んだこ
と、今後活かしていきたいこと

インターンシップは自分の入
社したい企業や面接で有利にな
るような企業でなければ意味が
ないという人がいます。しかし
私はそうは思いません。どの企
業のインターンシップでもそこ
で感じられる雰囲気は普段の学
生生活をしているだけでは絶対
感じることはできません。

この雰囲気や職務に関する適
性などを社会に出る前に知る
ことができたことが今回のイン
ターンシップでの一番の収穫だ
と思っています。

この経済学部におけるインター
ンシップ民間コースでの貴重な
経験を就職活動、またその先の
社会に出てからの仕事の中で活
かしていきたいと思っています。



インターンシップを体験して
「株式会社SCC」
経済学部公共環境経済学科三年 木村亮太

私は、二〇一〇年八月一七日
～三日の約二週間にわたり株
式会社SCCのインターンシッ
プに参加しました。SCCの
インターンシップでは北は北
海道、南は九州まで、全国の大
学生・大学院生、計二六名が参
加し、四班に分かれてグループ
ワークを行いました。

◆インターンシッププログラム
の内容について

グループワークでは『システ
ム開発における上流工程の基礎
的作業の体験』ということので
基本設計書の作成を目指して
日々議論を繰り返しながら作業
を行っていました。作業内容を
簡単に言いますと、お客様のw
ebサイトを効率化するために
お客様と相談しながら問題点を
見つけることや、使いやすい仕
様を考案していくというもので
す。使いやすさなど、仕様面で
はグループ独自の色が出て、最
終日の発表会では各班、工夫を
凝らした設計書が出来上がりま
した。

また、グループワークの他に

各種研修も行われ知識の補完や
チームで仕事に取り組み際の心
構えからスキームの立て方を教
わりました。

◆インターンシップ中に印象に
残っている出来事

今回のインターンシップで体
験したことはどれも大変印象深
く、挙げればきりがありません。
毎日朝早くから集まってグルー
プみんなで課題に取り組んだこ
と。連日のようにインターン後、
班内の子で集まり夕食に出かけ
課題についてだけでなく、大学
生活のことから将来について展
望を語り合ったこと。最終日、
今まで班内で練りあげてきた
資料を成果物として一つのファ
イルにまとめ、提出し終えたこ
との達成感。どれをとっても印
象深く、僅か二週間という短い
時間とは思えないほど密度の濃
い日々を過ごすことができ、今
でもその日々は大切な思い出と
なっています。

◆インターンシップで学んだこ
と、今後活かしていきたいこと

インターンシップで学んだこ
とは『自分の言いたいことを簡
潔に分かりやすく伝えること』
です。同じインターンシップ
に参加していると言っても、み
んな大学も違いますし今まで勉
強してきたことも異なっていま
した。そのため、当然分野ごと
に得手不得手や知識・スキルの
差というものが生じます。その
時に、一人で納得することや悩
んだりすること無く分からない
ことはわからないと素直に言う
こと、分かることは出来る限り
分かりやすく共有するというこ
とがとても大事だと実感しまし
た。実際にお客様にヒアリング
した際、こちら側の質問が上手
く伝わらないということも多々
あり、その度に言い回しや補足
知識、図を用いるなど試行錯誤
することが多くありました。
このような話は今回のインター
ンシップだけではなく、これか
らの学生生活や社会に出てから
も大事なことだと考えていま
す。そのため、インターンシッ
プ後、『自分の言いたいことを
簡潔に分かりやすく伝えること』
を常に意識するように心がけて
います。

◆インターンシップ体験が進路
決定や就職活動に与えた影響
について

自分の知らない企業や興味
のない業界についても積極的に調
べるようになったことです。イ
ンターンシップを通して世の中
には自分の知らない仕事があ
さんあること、先入観や思い込
みで仕事や企業を決めていた
たということを実感しました。
そのため現在ではできる限り説
明会やセミナーに参加し、仕事
や業界について理解を深めるこ
とや、実際に社員の方とお話し
することで企業の雰囲気、良い
ところや悪いところを知るよう
にしています。

◆大学卒業後の進路について

具体的な企業や業界について
は定まっておりませんが「幅広
い業界・企業と関われる仕事」
ということを軸に就職活動をし
ています。仕事を通して多くの
企業に貢献することで今日より
もちょっと良い未来、世界を作
るお手伝いができればと考えて
います。

え、あの先生が！シリーズの

少子高齢社会を担う経済学部生の印象

経済学部助教授 松浦 司



私は2009年に大淵寛先生の後任として、人口論の講座担当として中央大学に赴任しました。私の専門は人口、労働、教育といったテーマを対象にして、データを使った分析を専門にしております。よく、人口論を担当していると話しますと、日本は少子高齢化となつて本当に大丈夫なのか、という質問をされたりします。

そこで、少子高齢化社会が経済にどのような影響をもたらすのかということを経済学の分析手法の1つである成長会計という手法を使って考えたいと思います。成長会計とは、経済成長率は①生産性の成長率、②労働力成長率、③資本の成長率の3つから成り立っているという考え方です。

実際日本の高度経済成長の要因について成長会計を使うと、農村から都市への人口移動による労働力成長率の高さ、勤労世代が相対的に多い(人口学では人口ボーナスといえます)ために生じる高貯蓄率による資本成長率の高さ、高い識字率で示されるように教育熱心であることや勤勉であることよって生じる生産性成長率の高さによって説明できます。

しかしながら、現在の日本では少子高齢化社会になり、人口減少のため労働力成長率が低下する可能性が高くなります。また、若年期に貯蓄をして、老年期に貯蓄を取り崩すというライフサイクル仮説によれば、高齢化の進展は老年期世代の人数が多くなることよって貯蓄率の減少をもたらす、その結果、資本成長率を低下させます。

このような状況でどのように対処したら良いかを説明するために、もう1つの専門である労働経済学と教育経済学の出番です。つまり、労働力成長率や資本成長率が減少する可能性が高いため、求められる政策として女性や高齢者の就業促進を図ることで労働力成長率の低下を防ぐとともに、教育投資を積極的に推進することによって生産性を上昇させることが日本の経済成長にとって必要なことです。つまり、今後の日本の経済成長にとって教育が非常に重要であります。

そこで、若者の教育の実際について、私が中央大学に赴任して学生と接したうえで感想について述べたいと思います。昔から若者世代に対する批判は存在しますが、その批判内容については時代によって特徴があります。現在の若者世代に対する

批判の1つとして、国内志向が強く外国に目を向けなくなっているというものがありません。確かに、若者の外国旅行者、留学者の数は減少しており、内向き志向が強くなっているという批判も一面としては当たっていると思います。しかしながら、中央大学の学生と接していると、私が考えている以上に留学学に対して積極的であるという印象を受けます。ただ、予算制約の面や就職活動で遅れをとることを心配して躊躇しているケースを見かけます。若者世代を批判する前に、重要な人的資源である学生の国際化を促進し社会に貢献できる人材育成をするために、金銭的、人的支援を含めて大学としてすべきことはまだまだあります。

研究テーマも研究キャリアも非常にドメスティックな道を行くんだ、経済学部教員最年少というある意味、批判される若者代表(?)とも目される私に対して、そんなことを言うお前はどうかんだ、というツツコミが来るのは当然予想されますが...

編集後記
編集後記キャリアデザインの授業今年で三年目となりました。学生達にとって今後の人生設計をどの様に描くかという事は最大の関心事です。白門経友会では毎回十人程度の講師を派遣しております。卒業生の実体験を聴くということは彼らにとって有意義な事だと思っております。会員の皆様の応援を宜しくお願いいたします。

総会のご案内
期 日 平成22年6月4日(土)
会 場 中央大学多摩キャンパス
記念講演
講 師 渡辺 俊彦教授
詳細は次号にてご案内致します。

2011年 2月28日 第44号
発行 白門経友会 常任幹事会
発行人 白門経友会 編集委員長
鈴木 秀 男
〒192-0355 八王子市堀之内817番地
鈴木 様 方
TEL 042 (676) 8266 (代)
FAX 042 (674) 8668
E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp
郵便振込口座 00180-7-753686